



宇治市社会福祉協議会&宇治ボランティア活動センター
加入団体紹介・イベント案内等、各種情報掲載ページです。



傾聴ボランティア養成講座

日頃、話し相手も少なく淋しくお過ごしの方は近年増加しています。親身に思いを聴いてほしいと言う「傾聴ニーズ」が高まる中、良き聴き手となるボランティアを養成すべく、講座を企画しました。

- ◆主催＝宇治市傾聴ボランティアサークル「かかし」
- ◆申込先＝市社会福祉協議会内(電 22-5650)
皆さん！本講座を受講しボランティアを始めませんか！

- ◆開催日時 3月25日(木) 13:30~16:30
- ◆会場 市総合福祉会館内
- ◆受講料 無料(定員先着30名)
- ◆講師 中瀬真弓さん
(京都いのちの電話：事務局長)
- ◆申込みの受付開始 3月2日



ボランティア募集 ～宇治まなびんぐ～

「宇治まなびんぐ」は生涯学習に取り組んでいる皆さんの発表と交流の場、また、これから何かを始めたいと思っている人のきっかけづくりの場として「つなぐれ ひろぐれ まなびのわ・輪・和」をテーマに開催します。当日の運営(会場整理、出展コーナー補助など)をお手伝いしていただくボランティアを募集します。

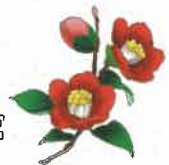
- ◆開催日時 2月13日(土)・14日(日) 9:30~15:30
- ◆場所 生涯学習センター
- ◆申し込み 参加可能日時・住所・氏名・電話番号を1月29日(金)までに
電話・ファックス・Eメール・来館で生涯学習センターへ
電話 0774-39-9500 FAX 0774-39-9501
Eメール shogaigakushu@city.uji.kyoto.jp

参加者募集・ボランティアマッチングサロン

- ◆開催日時 3月14日(日) 13:30~15:30
- ◆場所 宇治市総合福祉会館 207号室
- ◆費用 無料・事前申し込みが必要です
- ◆申し込み締め切り 2月19日(金)
- ◆お名前・メールアドレスと会場参加かオンラインかをご記入の上、ボランティア活動センターへお送りください
Eメール: vorakatu28@yahoo.co.jp
FAX: 0774-22-5654

ボランティア活動センター【今後の主な活動日程】

- 1月20日(水) 19:00~
運営委員会 於：市福祉会館
- 2月 3日(水) 19:00~
役員会 於：市福祉会館
- 2月17日(水) 19:00~
運営委員会 於：市福祉会館
- 3月 3日(水) 19:00~
役員会 於：市福祉会館
- 3月 7日(日) 13:30~16:00
Zoom 使い方講習会 於：市福祉会館
- 3月14日(日) 13:30~
マッチングサロン 於：市福祉会館
- 3月17日(水) 19:00~
運営委員会 於：市福祉会館
- 1月11日(月) ■2月11日(木)
黄色いレシートキャンペーン
(レジ前PRはなし)
イオン久御山で投函Boxあり。



宇治ボランティア活動センター情報紙

パートナー 2021-1



フェイスブックの「宇治ボランティア活動センター」ものぞいてみてください
電子版パートナーFB「宇治ボラ活パートナー」フォロー・いいね待ってます。

発行 宇治ボランティア活動センター
〒611-0021 宇治市宇治琵琶 45
宇治市社会福祉協議会内
TEL:0774-22-5650 FAX:0774-22-5654
発行者:加藤 博史
編集者:山本理恵子、坂井久夫、中川元
ホームページ(社協) <http://uji-shakyo.net>
eメール vorakatu28@yahoo.co.jp



年の初めのご挨拶 運営委員



♥ 今年は長い長い1年でした。いつコロナが終息するのか待ち遠しい1年でもありました。でも人と人とのつながりの大切さを学んだ1年でもありました。ボランティアって実はつながりを求めていく人のあり様を指した言葉ではないのかと思います。 [岡野 英一]

♥ 新型コロナ禍で⇒医療の従事者・研究者に敬意と感謝ですが、感染不安、仕事や事業での心配事も増大し、こんな時下での共助の在り方を考えたいものです。
哀歌：腕時計 電池替えても 動かない コロナのせいで 冬眠状態 [監事 西川 重雄]

♥ 委員をもう何年やっているか?判らなくなってきました。学区福祉委員から始まり民生委員や災害関係の京都府宇治市の委員をさせて頂いています。最近何を感しているかと言いますと、長年ボランティアをやっていて趣味のトライアスロンも長くなってきました。色々な場面で「スット」何かお手伝いしますよ。声をかけて下さいと言えるようになりました。 [海老名 典子]

♥ 運営委員になって早2年。その間、主に助け合い活動検討委員会に所属して、生活応援隊の立ち上げの協議に関わってきました。多くの方に生活応援隊に参加いただき、ボラ活としてちょっとした生活の困りごとを支援していくことができればと思います。 [芦田 康雄]

♥ 前回の役員改選時に運営委員長をひかせていただきましたが、監事として居座っております。退任に伴い、社協の副会長も退任しており、公の役職はほとんど無くなり、ゆめハウスで売っている野菜作りに忙しい日々です。 [曾谷 武]

♥ 二期四年が間もなく終了します。二期目は新型コロナ禍の為に所属班事業が相次ぎ中止に追い込まれ残念至極。が、四年を総括すると、運営委員としての活動を通して自分の視野を拡げることができたのではと思っています。 [今井 雅之]

♥ この二年間、コロナ風潮で一年だけ活動できた中、マッチングサロンだけは二年間続けて元気よく皆さまの協力で活発に活動できた。早くコロナが終息して、元の姿に戻り市民、皆さま方の元気なお声を聴き、ボラ活の活動共に、自由に動きたい。 [木子 弘美]

♥ 宇治でボランティア活動に関わらせていただき早6年。嬉しいこと、面倒なことはなるべく避けつつ過ごしてきた私が、少しだけ勇気をもって「何かできる事ってありますか?」と社協ボランティア相談に出向いたのが最初の一步でした。 [福本 千尋]

♥ 運営委員になって早1年半が過ぎました。諸先輩のご指導でなんとか活動のお手伝いをさせて頂いております。マッチングサロン、ゆるキャラ、助け合いの準備などを担当していますが、今年コロナの関係でうちの活躍等ができなくて残念です。 [堀井 勝英]

♥ 活動センターに参加して10数年。多くのサークルの活動を知る事で物事の真相や本質が分かり人の絆・寄り添う心の大切な事や研修会を通して学び、又バリアフリー上映会にもメンバーとして参加させてもらいながらボランティアとしての活動の原点を見えて来た。色々な方とのふれあいも大きな力となっている。もう少し活動を続けられたらと思っている [佐久間 好子]

♥ 当センターは「宇治地域」の中にあるボランティア活動や地域福祉を推進していくことを目的に、登録団体、個人登録、市民の皆さんの間に立ち、そこを相互につなぐ「中間支援」が役割です。ボランティア活動したい、ボランティアに来てほしい、探し方がわからないなど、遠慮なく宇治ボランティア活動センターをご利用ください。 [事務局 根本 賢一]

宇治ボランティア活動センター主催研修会 「zoom をうまく使いこなそう！」

新型コロナが広がる中、こんな毎日がいつまで続くのかと不安もありますが、今、新しいコミュニケーションの方法が浸透しています。その一つが「zoom」の活用です。今回 zoom の基本から応用まで学ぶことを目的に研修会を開催します。多くのボランティア関係者のご参加をお待ちしています。



- ◆開催日時 令和3（2021）年3月7日（日）
午後1時30分から4：00
- ◆場 所 宇治市総合福祉会館3階306室
（宇治市宇治琵琶45番地）
- ◆講 師 湯上裕之さん（NPO法人まちづくりねっと・うじ）
- ◆内 容 ①「zoom」の基本から応用まで
②ボランティアサークルにおける
「zoom」の活用方法 等
- ◆参加者 本センターに登録している団体から1名
- ◆申込方法 メールでお申し込みください。

vorakatu28@yahoo.co.jp 先着15名まで

※お申し込みの際は、どのような内容を学習したいのかを添えてください。

おめでとう ございます！

ボランティア活動センター登録団体
遊びの学校運営委員会
「遊び研究会」が
**厚生労働大臣
表彰**
に決まりました。

ボランティア活動センター運営委員
中川元さんが
宇治市社会福祉協議会会長表彰
に決まりました。

宇治リーディングボランティア(URV)は目の不自由な人たちにさまざまな「声の情報」をお届けするボランティア団体です。

私たちは「市政だより」をはじめとして、新聞記事や雑誌・一般図書なども録音しています。そして日々、より聞きやすく正確な情報をと心がけてマイクに向かってデジタイズ録音しています。しかし発声やアクセント、誤読に気をつけるなど、まだまだ学ぶべきことも多く勉強の毎日です。

ところで今年も音訳ボランティア養成講座(初級)を開きました。コロナ禍にも拘わらず、多くの熱意ある人達をお迎えできました。朗読が好き・介護や他のボランティア活動をしていた・働き方改革で時間ができた・人にやさしい自分をと受講の理由は様々ですが、皆さん大変音訳ボランティアの活動に興味をお持ちです。ここで学んだことを生かして一緒に活動できる今後が楽しみです。

URVの歴史は長く1997年に4人の会員で発足しました。なんと40年以上も活動が続いているのは、ただ単に「音声」の情報を届けるだけでなく、視覚障がいの方たちとの交流も大切にしているからかもしれません。

このような交流から生まれる「つながり」がある限り、URVはこれからも存続することでしょう。今日も私たちが音訳したCDの入った郵便物を待ってくださる方のために頑張ってマイクに向かって声を録音します。 [文責：根小田]



養成講座最終日の様子



石牟礼さんは、永野さんの師で、長く患者に寄り添ってきた人です。石牟礼さんは昔から水俣に伝わる風習「悶え加勢」をこう説明します。

「苦しんでいる人がいるときに、その人の家の前を行ったり来たり、ただ一緒に苦しむだけで、その人は すこおし楽になる。」
自分の弱さを丸ごと受けとめられた人だけが、相手の痛みを我が事として感じとれます。大事なものは、自分の弱さに気づき、弱さを受容し、弱さを語るパワーでしようね。
それはボランティア活動がもたらしてくれます。



「もだえかせずればよかとです」
（加藤 博史）

永野三智さんは、水俣病患者の支援をされています。あるとき永野さんは、

相談に来る患者の痛みを前にして、何もできない自分が不甲斐なく、泣きたい気持ちになりました。それを見ていた石牟礼道子さんが、「悶え加勢すればよかとです」と言ってくれました。

「コロナ禍だからこそ気づけること」

視覚障害のある人たちに、日常の様々な情報を伝えるために、「情報を点訳や拡大文字にする」「情報を音声で伝える」などのボランティア活動があります。また、ガイドヘルパーのように直接、行動を共にしてサポートする活動があります。その上で、大切なことは情報を伝えることを通じて、視覚障害のある人とのつながり作りや、何気ないおしゃべりの中から、日頃の思いや困りごとを教えてもらい、私たちにできることは何かを知ることではないでしょうか。実際に活動をしているボランティアの中には、そんな思いを大切に、活動を続けている人がたくさんおられます。

新型コロナウイルス感染症拡大予防のために、人と人との会話や交流に制限を受ける中で、様々な活動への影響は隠せませんが、視覚障害のある方にとって、活動者の皆さんとのやりとりから得られる情報は大変貴重だと思います。コロナ禍で今まで続けてきたことができないことがある反面、改めて、何のために、誰のために活動をしているかを振り返る良い機会と捉えることも大切ではないでしょうか。 [宇治市社協V担当：米田]

♥ 年の初めのご挨拶 市社協からの視点、運営委員の視点、両方を持ちながら、これからも宇治ボランティア活動センターや各ボランティア団体の皆さんと一緒に、ボランティアの輪が広がるようがんばっていきたくと思います。

点訳グループ宇治川

2021年3月までボランティア養成講座10回の開催を始めたばかりのお忙しいさなかの11月半ばに、取材に伺いました。

「点訳グループ宇治川」は緑綬褒章を受章された歴史と実績を兼ね備えた団体です。視覚障害者協会とも連携し、過去には小・中学生の教科書、参考書、学校からの要請で専門書も手掛けていたそうです。

点訳とは、視覚に障がいのある方のために書籍や雑誌、広報誌、新聞などを「点字に変える」作業です。点字は視覚障がいのある方にとっての触って読む文字です。ですが、点字には漢字も絵もありませんから、膨大な長さになり作業が大変です。以前は1人の為に45人が1週間掛かって訳したこともあったとか。今は日本点字図書館がシステム管理する「サピエ」に情報登録することで、誰でもいち早く情報を得ることができるようになっています。「宇治川」の皆さんの作品も数多く「あい丹後」に登録されているようです。自分の手掛けた点訳が登録され、たくさんの方に利用してもらえるのは、やりがいになるでしょうね。

活動は主に自宅で作業をしていますが、月に一度定例会を開いて情報交換をしています。第1・4木曜日にワーキングで勉強会もされています。お話を聞くにつれて奥の深い、専門性の高いボランティアだと思いました。読書が好きで根気強い方には、ぜひお薦めしたいボランティアです。 [文責：山本]



安藤さん・今里さん・木野さん